

(6)「グローバル国語」について

〈目的〉

「話す・聞く」の領域に特化した日本語による様々な言語活動を行うことで、コミュニケーションや協働することを体験的に学ぶ。まずは自分の意見を持って主張することからはじめ、次に異なる立場や環境にある他者の意見を尊重して自分の意見と発展的にすりあわせ、問題解決に向かっていけるようにすることで、コミュニケーションの土台となる力を養い、物事を多面的に見る力と、多様性を受容し協働して問題を解決する力を育む。

〈身につけさせたい力〉

ア 表現力

「話す・聞く」の領域に特化して様々な言語活動を行うことで、効果的な話し方や聞き方を体験的に学ばせ、伝えたい内容や伝達に使用するメディアの特性を活かした表現力を身につけさせる。

イ 協働力

ペアやグループでの活動で、他者と協力しながら問題解決に向かう体験を通して、自分の意見と他者の意見をすりあわせ、結論へ導いていく力を身につけさせる。また、グループでの自分の役割を自覚し、主体的に活動できる力を身につけさせる。

ウ 情報活用力

必要な情報を自ら収集し、その内容を論理的に判断し、分析してまとめ、そこから考えられることを自分の意見としてまとめる。その情報を活用して、自分の意見を論理的に述べる力を身につけさせる。また、その情報を多面的に捉え直すことで、新たな発想を得て、答えのない問への探求につなげる。

〈実践内容および方法〉

1 単位の授業であるが、グループで準備が必要であったり、講師を招いたりする必要があるので、各学期ともある時期にまとめて実施した。

1 学期には、他者に伝わるように自分の考えを工夫して表現することに取り組んだ。まずは取り組みやすいテーマでスピーチし、次に明治以降の日本の評論・随筆の紹介という生徒にとって魅力を伝えるのが難しいテーマを設定した。本の POP の評価では、自分の感じたことを分析、言語化して伝えた。多数決ではない合意形成を経験することで、対話の仕方を学んだ。インタビューではあまり関わりのない他者とのコミュニケーションの力を磨いた。集めた情報を分析し、魅力が伝わるよう工夫して発表した。

2 学期には、1 学期で学んだことを活かして「ビブリオバトル」を行う予定であったが、夏期休業の延長に伴い中止した。2 学期の活動では、ディベートを中心に自分の立場の正当性を立証するための技術習得を目指した。テーマに関する情報を収集・選択し、それを活用して客観的に考察し、論理的に表現する力を育成した。また、逆の立場からの意見を想定し、反駁を考えさせることで生徒は多角的な視点を身につけた。今年度も図書館でのグループワークの時間を設け、奈良県立情報図書館や橿原市立図書館から蔵書を借用し、書籍を多数用意して、文献の活用の仕方を学ばせた。今年度は ICT も活用し、立論、質問、反駁の際に Google のスライドを使用し、トピックごとに見出しをつけ、必要に応じて資料をつけるなど、各グループで伝わりやすいように工夫していた。ジャッジのための意見交換には jam board を使用し、投票には form を使用してその場ですぐに結果を表示し共有した。ディベートの活動の後、平田オリザ先生をお招きしての講演会を行い、コミュニケーションについて学んだ。国語総合の古典と連動させ、勉強したことを自分の日常生活の中で探し、それを短歌に詠んだ。短歌の提出の際にその短歌に合う写真を撮り、短歌に添えた。冬期課題として自分で短歌を詠んだ経験をもとに、国語総合の課題で暗唱した百人一

首から推薦する和歌、「推し和歌」を選んで、自分の解釈を表現した。その「推し和歌」は各クラスの廊下に掲示し、他クラスの生徒の作品も見られるようにした。

3学期には、2学期に生徒が詠んだ短歌を鑑賞し、作品に投票、コメントをつけた。活動の中心として、劇の制作を通して、身近な問題から世界の問題に関心を向けること、他者と協力しながらひとつのものを作り上げること、様々な手法を用いて表現することを学んだ。自分たちの身近な問題が世界の問題につながっていることを意識し、SDGsを切り口に、劇のテーマを考えた。テーマ決定に際して、夏期休業中に取り組んだ「課題研究へのアプローチ」や、家庭科の課題で実践したことなど、これまでに学校で学んだことを活用した。課題と現状、解決策を調査、考察し、それをどのような物語で伝えるのがいいのかを考え、グループで協働しながら脚本を書き、作品を作った。各クラスで作品を発表し優秀作品を決め、各クラスの優秀作品を学年発表会で発表させた。

月	時間	学習内容	テーマ、教材、講師
4	1	ガイダンス ・科目の目標、学習上の留意点、評価のポイント等を理解する	年間学習計画
5	3	50秒スピーチ ・伝えたい内容を整理し、聞き手の関心を引きつけられるよう構成を考え、50秒にまとめる。 ・話す速度や声の大きさ、態度に注意して話す。 ・関心を持ってスピーチを聞き、発見や疑問点を明確にする。 ・多種多様な考えや意見があることに気づく。	「私が将来訪ねたい国」
6	2	講演「わかりあえないことから」→感染拡大を受け延期	平田オリザ先生
6	2	本のPOPを作ろう ・「その本を手にとって読んでみたい」と思わせるためにはどうしたらいいか、考えて作成する。 ・作成にあたり本の内容や面白かった点、おススメのポイントをまとめ、本のキャッチコピーを考える。 ・イラストを使ったり、文字の書き方や大きさ、色など描き方でも人目を引くように工夫する。 ・6～7人の班に分け他の班の作品を鑑賞し、自分の感想を言葉にして他の班員に伝える。 ・班長を中心に多数決ではなく話し合いで意見をまとめ、班の優秀作品を決め発表する。話し合いの中でいろいろな考えや見方があることに気づく。	春休みに国語便覧に掲載されている評論家の中から一人選び、その著作を1冊選び、読んでくる課題を出している。
6, 7	2	他己紹介 ・紹介する生徒の魅力を引き出せるようインタビュー項目を考える。 ・話しやすい雰囲気作りや、答えやすい問い方など工夫する。 ・インタビュー内容に説得力を持たせ、偏りがないように第三者にもインタビューを行う。二つのインタビューから紹介する内容を考える。 ・一人二分で班別発表を行い、評価表に基づいて相互評価をする。その後各班の代表がクラス発表を行い、評価表に基づいて	「インタビュートレーニング～他己紹介」

		相互評価する。	
9	2	ビブリオバトル→夏期休業の延長に伴い中止	
10 , 11	7	ディベート 1 時間目：ガイダンス・役割分担 2、3 時間目：図書館で資料収集と選択・作戦会議 4 時間目：論の組み立て、スライドの準備 5～7 時間目：ディベート ・自分の意見をしっかり持ち、それについて筋道を立てて効果的に説明する方法を学ぶ。 ・論題についての情報を適切に収集し、取捨選択して必要な情報を活用する。 ・相手の話をよく聞き、論理の筋道を理解する。 ・ディベートを通して課題を解決したり、考えを多角的に深めたりする姿勢を身につける。	「消費税は現行の10%よりもっと引き上げるべきだ」「日本において死刑制度は継続すべきだ」「日本において総理大臣は直接選挙で選ぶべきだ」 6 班に分け、各班が上記テーマの肯定派または否定派をそれぞれ担当する。
11	2	講演「わかりあえないことから」 ・コミュニケーションにおいて大切なこと、異なる立場にある者が対話してつながることの難しさや楽しさなどについて学ぶ。	平田オリザ先生 芸術文化観光専門職大学学長・江原河畔劇場芸術総監督
11	1	短歌を作ってみよう ・国語総合の授業で学んだこと(『徒然草』「花は盛りに」)を自分なりに理解し、日常生活に当てはまることがないかという視点で物事をみる。 ・短歌という表現方法を使って、自分の感じたことを表現する。 ・自分の詠んだ短歌をよりわかりやすく伝える工夫をする。(短歌に合う写真を添える)	A「花は盛りに」で述べられていたこととあなたが思うこと B 日常生活であなたが心を動かされたこと/A,B どちらかのテーマで短歌を詠む
12		私の「推し和歌」はこれだ ・「推し和歌」について修辞法や文法事項、作者について等基本事項をおさえ、わかりやすく表現する。 ・「推す」理由について言語化する。和歌の解釈は一般的な解釈と一致していなくても良い。自分の視点で鑑賞する。	百人一首(百人一首以外も可)から自分の「推し」の和歌を一つ選び、紹介する。
1	1	短歌の鑑賞 ・他の人の短歌を鑑賞し、そこに込められた意味や工夫しているところを考える。 ・他の人の作品を自分の基準でジャッジし、作品の良かった所を言葉で伝える。	2 学期に作成した生徒の短歌をクラスで鑑賞する。
1, 2	6	劇を作ってみよう 1 時間目：説明、台詞の書き方の練習 2 時間目：図書館で課題について話し合い・情報収集 3 時間目：脚本の作成 4 時間目：練習 5 時間目：クラスでの発表 6 時間目：学年発表 ・自分たちの周りの課題について考える。「課題研究」や他教科	自分たちの身近な課題について考え、それを伝えるための劇を作成・上演する。

	<p>で学んだことを活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合った課題を SDG s の観点でみるとどうなるか考えることで、身近な問題が世界につながっていることに気づく。 ・問題、現状、解決策をまとめ、それを効果的に伝えるための劇を考える。 ・脚本を書くことを通して、さまざまな表現方法を学ぶ。 ・班の中での役割を自覚し、協力して作品を作り上げる中で、コミュニケーション力や問題解決への姿勢を身につける。 	
--	--	--



ディベート 電子黒板を用いて立論



聴衆（ジャッジ）はPCを使って意見し、投票



劇の練習 密を避けるため文化創造館で



劇 クラス発表の様子

〈成果と課題〉

これまでの実践内容を踏襲、発展させながら、昨年度までの課題にも取り組めるよう計画した。今年度の活動の成果は以下の3点である。

1 他教科との連携によって学習の幅を広げる

同じ「国語」である「国語総合」との連携の他に、「課題研究へのアプローチ」や家庭科から課題を見つけたり、ディベートでは情報の授業で学習したことを活用して情報を集め、スライドを作成した。またディベートの中では「現代社会」で学んだことを活かしていた。短歌を詠む課題では、教室以外の場所で、教室で学んだ古典の内容を日常生活で意識することで、教室外でも学習内容が自分たちの生活に結びついていることを体験した。学んで得た知識を教科を横断して使うことができるようになってきた。アンケートで、他の授業や社会生活に授業内容が役立つと考える（e, f）の項目に肯定的な回答が多いところからも、教科の枠を越えて、グローバル国語の授業を活用しようという姿勢が見られた。

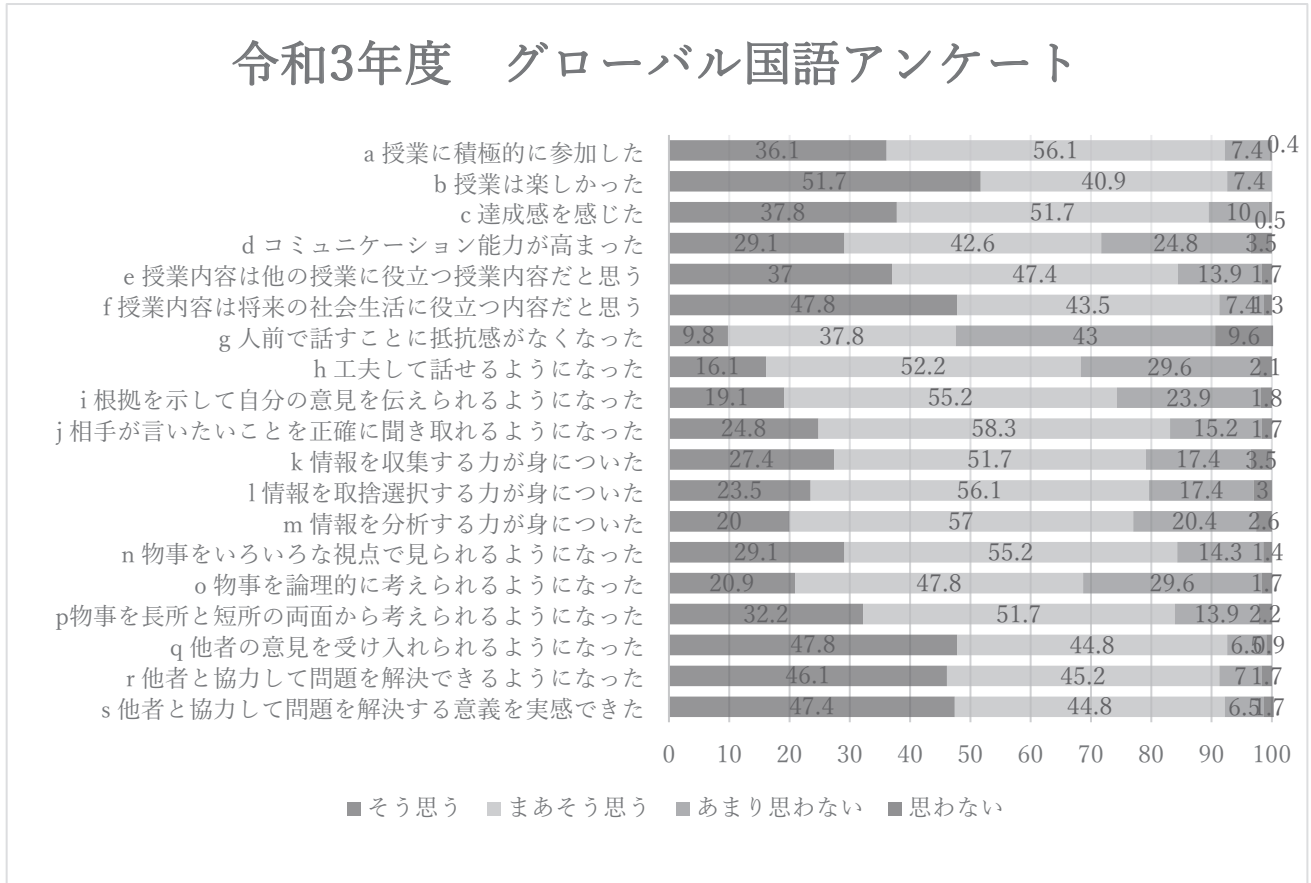
2 対話する力

他者と協働する際にどのようにコミュニケーションをとるのか、対話を通してどのようなものが得られるのかを、ペアやグループ活動を通して体験した。POPの優秀作品を決めるのに話し合いによる合意形成を行った。多数決ではない決め方に初めは戸惑っていたが、苦労してみんなの意見をまとめていく過程で、いろいろな考え方があることに気付いた。多数決で優秀作品決まっても、話し合う中で別の作品の良さに気づき、優秀作品が変わる経験をたくさんの生徒がした。対話することで新しい結論にたどり着く経験から、対話の面白さを学んだ。そこから2学期以降の話し合いにおいて、人の意見をしっかり聞きながら、自分の考えを述べるなどスムーズに行えるようになった。アンケートでも他者と協働すること

(q～s)において、非常に高い達成感を持っていることがわかった。

3 主体的に学ぶ姿勢

授業の初めに、授業の目的や目標を示していたので、それらを意識しながら学習活動を行うことができた。全体的にみても、授業に積極的に参加していた。アンケートの a～c の項目にも肯定的な回答が多かった。学習後の振り返りにおいても「この点はできたが、ここは不十分だった」「この点は頑張ろうと思ってできた」など目的を意識して学ぶことができた。特に ICT の活用においては積極的に工夫し、こちらから指示しなくても、自分たちで試行錯誤していた。答えのない問題に対しても、自分たちなりの答えを導きだそうとする姿勢が見られた。



一方で以下の2点において課題が残る

1 論理的に書く力の育成

今年度は昨年度まで実施していた、小論文の作成を行わなかった。「話す・聞く」を中心にコミュニケーション力や表現力を磨くことに主眼を置いたため、自分の考えを論理的に書いて表現する力を育成することができなかった。国語総合である程度は行っているものの、情報を活用し、自分の意見を効果的に表現するためにどう書けばいいのかわからず、じっくり学ぶことができなかった。アンケートからも根拠を示して自分の意見を伝えること (i) や、情報を活用すること (k～m) においてはまだ不安を抱えている生徒がいることがわかる。

2 学習活動のフィードバック

1学期に発表したことで、自分の中の反省点や、他者の発表を聞いて気づいたことなどを2学期のビブリオバトルで還元させたかったが、実施できなかった。またディベートの活動において、他の班の様子を見て学んだことや、反省点を活かして「もう一度やりたい」「別のテーマで取り組んでみたい」という意見が多く見られたが、同じ取り組みを行うことは時間的に不可能であり、他の形でのフィードバックができる年間計画を立てる必要がある。